

## 天災の詳細(時代順)

天災	読み方	日付		内容	被災地	被害	関連する文学作品
磐梯山噴火	ぼんだいさんふんか	1888(明治21)年 7月15日		噴火	福島県	死者461人	井上靖著『小磐梯』
濃尾地震	のうびじしん	1891(明治24)年 10月28日		震度6 マグニチュード8.0の地震	岐阜、愛知、滋賀、三重	死者7,273人	谷崎潤一郎著『幼少時代』 西村伊作著『我に益あり』
三陸沖大地震 (明治三陸地震)	さんりくおきおおじしん	1896(明治29)年 6月15日	 	震度2~3 マグニチュード8.2の地震 津波	北海道から東北	死者21,959人	吉村昭著『三陸海岸大津波』
安達太良山噴火	あだたらやまふんか	1900(明治33)年 7月17日		噴火	福島県	死者72人	
伊豆鳥島噴火	いずとりしまふんか	1902(明治35)年 8月7~9日		噴火のため島民全滅		死者125人	
関東大水害(明治)	かんとうだいすいがい	1910(明治43)年 8月11日	 	台風による水害	関東	死者・行方不明者 1,379人	
桜島噴火	さくらじまふんか	1914(大正3)年 1月12日		大正大噴火	鹿児島県	死者58人	寺田寅彦著『震災日記』
関東大水害(大正)	かんとうだいすいがい	1917(大正6)年 9月30日		高潮による水害	関東	死者・行方不明者 1,301人	内田百閒著『大風一過』
関東大震災	かんとうだいしんさい	1923(大正12)年 9月1日		震度6 マグニチュード7.9の地震 火事	東京都	死者・行方不明者 105,000人余	寺田寅彦著『震災日記』 田中貢太郎著『貢太郎見聞録』『日本大震災史』 井伏鱒二著『菟窪風土記』 芥川龍之介著『百艸』 幸田文著『きもの』 田山花袋著『東京震災記』『白夜』 林芙美子著『放浪記』 永井荷風著『断腸亭日乗』 島崎藤村著『子に送る手紙』
十勝岳噴火	とちだけふんか	1926(大正15)年 5月24日		噴火 大規模な泥流	上富良野・美瑛 埋没	死者144人	三浦綾子著『泥流地帯』
北丹後地震	きたたんごじしん	1927(昭和2)年 3月7日		震度6 マグニチュード7.3の地震	京都府	死者2,912人	
昭和三陸沖地震	しょうわさんりくおきじしん	1933(昭和8)年 3月3日	 	震度5 マグニチュード8.1の地震 津波	岩手県	死者・行方不明者 3,064人	寺田寅彦著『橡の実』(「地震と津波」) 吉村昭著『三陸海岸大津波』
室戸台風	むろとたいふう	1934(昭和9)年 9月21日		台風	京阪神	死者2,702人 行方不明者334人	寺田寅彦著『天災と国防』 小田実著『風河』
鳥取地震	とっとりじしん	1943(昭和18)年 9月10日		震度6 マグニチュード7.2の地震	鳥取県	死者1,083人	
東南海地震(昭和)	とうなんかいじしん	1944(昭和19)年 12月7日	 	震度6 マグニチュード7.9の地震 津波	三重県	死者・行方不明者 1,183人	堀田善衛著『方丈記私記』 木村玲欧著『戦争に隠された震度7』
三河地震	みかわじしん	1945(昭和20)年 1月13日		震度5 マグニチュード6.8の地震	三重県	死者1,961人	木村玲欧著『戦争に隠された震度7』
枕崎台風	まくらざきたいふう	1945(昭和20)年 9月17日~18日		台風	西日本、特に広島	死者2,473人 行方不明者1,283人	柳田邦男著『空白の天気図』
南海地震(昭和)	なんかいじしん	1946(昭和21)年 12月21日	 	震度5 マグニチュード8.0の地震 津波	三重から高知	死者1,443人	宮尾登美子著『仁淀川』 市原麟一郎著『遠くから地鳴りがする』

カスリーン台風	かすりんたいふう	1947(昭和22)年 9月14日～15日		台風	東海以北	死者1,077人 行方不明者853人	
福井地震	ふくいじしん	1948(昭和23)年 6月28日		震度6 マグニチュード7.1の地震	福井平野とその周辺	死者3,769人	司馬遼太郎著『越前の諸道 街道をゆく』18 有明夏夫著『俺たちの行進曲』
ベヨネーズ列岩噴火	べよねーずれつがんふんか	1952(昭和27)年 9月24日		噴火 新島出現 噴火のため調査中の31名殉職		死者31人	
梅雨前線 (昭和28年西日本水害)	ばいうぜんせん	1953(昭和28)年 6月23～30日		豪雨	九州、四国、中国、特に北九州	死者748人 行方不明者265人	
南紀豪雨	なんきごうう	1953(昭和28)年 7月16～25日		豪雨	東北以西、特に和歌山	死者713人 行方不明者411人	
洞爺丸台風	とうやまるたいふう	1954(昭和29)年 9月24日～27日		台風 青函連絡船洞爺丸が転覆	全国、特に北海道、四国	死者1,361人 行方不明者400人	上前淳一郎著『洞爺丸はなぜ沈んだか』
狩野川台風	かのがわたいふう	1958(昭和33)年 9月26日～28日		台風	近畿以東、特に静岡	死者888人 行方不明者381人	高田宏著『荒ぶる自然—日本列島天変地異録』
伊勢湾台風	いせわんたいふう	1959(昭和34)年 9月26日～27日		台風	九州を除く全国、特に愛知	死者4,697人 行方不明者401人	井上靖著『傾ける海』
雲仙普賢岳噴火	うんぜんふげんだけふんか	1991(平成3)年 6月3日		噴火 火砕流	長崎県	死者・行方不明者43人	
兵庫県南部地震 (阪神・淡路大震災)	ひょうごけんなんぶじしん	1995(平成7)年 1月17日		震度7 マグニチュード7.3の地震	神戸市等阪神淡路地域	死者・行方不明者6,437人	司馬遼太郎著『司馬遼太郎が考えたこと』15 村上春樹著『神の子どもたちはみな踊る』 小田実著『深い音』 小松左京著『大震災'95』
東北地方太平洋沖地震 (東日本大震災)	とうほくちほうたいへいようおきじしん	2011(平成23)年 3月11日		震度7 マグニチュード9.0の地震 国内史上最大規模の地震 9.3m以上の津波	東日本、特に宮城、仙台、福島	死者19,630人 行方不明者2,569人	川上弘美著『神様2011』 いとうせいこう著『想像ラジオ』 有川浩著『空飛ぶ広報室』 高橋源一郎著『恋する原発』 古川日出夫著『馬たちよ、それでも光は無垢で』 門田隆将著『死の淵を見た男』『記者たちは海に向かった』 大江健三郎著『晩年様式集』
御嶽山噴火	おんたけさんふんか	2014(平成26)年 9月27日		噴火のため火口付近の登山者らが死亡		死者・行方不明者63人	

# 高知県内の地震・津波碑

碑名	読み方	地震名	場所	築年日	施主	メモ
1 夜須観音山碑	やすかんのんやまひ	安政地震	高知県香南市夜須町坪井 観音山山頂			夜須町の観音山山頂に鎮座する碑。観音山が「命山」と呼ばれるゆえんが石碑に刻まれている。
2 西山観音寺地蔵台座碑	にしまかんのんじじぞうだいざひ	安政地震	高知県香南市夜須町西山785 観音寺跡	1856(安政3)年3月	常光及助	夜須町西山地区観音寺跡に設置してある地蔵の台座に安政地震の記録が刻まれる。
3 岸本飛鳥神社惣礎	きしもとあすかじんじやちようひ	安政地震	高知県香南市香我美町岸本 飛鳥神社	1858(安政5)年9月	長尾爲治 ほか	高さ2mを越す巨石に縦横無尽に文字が刻まれている宝永地震の碑。飛鳥神社境内に建立する。
4 上岡八幡宮震災碑	かみおかはちま んぐうしんさいひ	安政地震	高知県香南市野市町上岡	1882(明治15)年8月	嶋内武金	香南市野市町の上岡八幡宮の参道入口に立つ碑。安政南海地震の時の被害の様子が刻まれる。
5 里改田琴平神社玉垣碑	さとかいだことひ らじんじやたまがきひ	安政地震	高知県南国市里改田			地震で山が崩れ津波が押し寄せて一面海の底に沈み、鼈(げんだ) ※おおすっぽん、わに)の住処となってしまったと安政地震の様子を刻む。
6 仁井田神社玉垣碑	にいだじんじやたまがきひ	安政地震	高知市三里	1857(安政4)年2月		碑文が刻まれている二つの玉垣碑のうち、左(西)側の碑には碑の建立日、右(東)側の碑には安政地震発生当時の潮の変化について刻まれている。
7 仁井田神社五本松御旅所の碑	にいだじんじやごほんまつおんたひどころのひ	昭和南海地震	高知県高知市仁井田			昭和南海地震でこの場所の鳥居が倒壊して再建されたことを記す碑。
8 種崎久保家墓碑	たねざきくぼげほひ	宝永地震	高知市種崎	1886(明治19)年12月	(六代目)久保助五郎	宝永地震の津波により、種崎村にある昔の記録が記された墓碑がすべてのこらず流失してしまったため、墓碑の主である久保家の初代もわからなくなってしまった。そのため新たに「初代」を設定したことが記されている。
9 北高見南無妙地震碑	きたたかみなむみょうじしんひ	関東大震災	高知市北高見町	1925(大正14)年冬	(要法寺39世住職)松榮尼	高知県内では被害が出なかった関東大震災の犠牲者を供養するために建てられた石碑。
10 浦戸稲荷神社石柱碑	うらどいなりじんじやせきちゆうひ	安政地震	高知県高知市浦戸186 稲荷神社境内	(鳥居が作られた年)1826(文政9)年8月	大黒屋嘉七郎	安政地震で倒壊した稲荷神社の石柱を地震津波碑として再建したもの。大地震が発生するときは津波がやってくるから気をつけるようにという警鐘が刻まれている。
11 萩谷名号碑	はぎたにみょうごうひ	安政地震	高知県土佐市宇佐町宇佐	1857(安政4)年11月	緑屋傳平・久市屋菊右工門・梶和屋源次郎	土佐市にある安政地震碑。正面に「南無阿弥陀佛」と大きく刻まれており、また円柱全体に碑文が刻まれている。
12 宇佐漁協前震災碑	うさぎよきょうまえしんさいひ	昭和南海地震	高知県土佐市宇佐町宇佐	1949(昭和24)年3月25日	宇佐町	宇佐漁港前にそびえ立つ巨大な板状の昭和南海地震の石碑。
13 青龍寺国家繁栄碑	しょうりゅうじこっかはんえいひ	安政地震	高知県土佐市宇佐町竜青龍寺境内	1863(文久3)年正月		津波の第一波で流れた家が第二波で元に戻った、これは青龍寺本尊信仰のためだとその加護をたたえる。
14 勢井の海岸:最高潮の跡碑	せいのかいがん:さいこうちようのあとひ	昭和南海地震	高知県須崎市大谷163-4	1946(昭和21)年12月21日	深瀬利行	勢井の海岸付近にある昭和南海地震の最高潮の跡碑。野見地区の最高潮の跡碑と異なり形状が丸い。
15 河原恵美須神社地震碑	かわはらえびすじんじやじしんひ	昭和南海地震	高知県須崎市大谷	1951(昭和26)年6月5日	河原青年団・河原われら会	野見湾が一望できる高台にそびえ立つ昭和南海地震碑。台座の形状が非常に個性的である。
16 野見神明宮:最高潮之跡碑	のみしんめいぐう:さいこうちようのあとひ	昭和南海地震	高知県須崎市野見			須崎市野見地区神明宮境内にむかう階段途中にある昭和南海地震の津波の最高浸水域を示す碑。
17 江雲寺:最高潮之跡碑	こううんじ:さいこうちようのあとひ	昭和南海地震	高知県須崎市野見			須崎市野見地区江雲寺入り口階段に建てられている昭和南海地震の津波の最高浸水域を示す碑。
18 野見震災復旧碑	のみしんさいふつきゆうひ	昭和南海地震	高知県須崎市野見	1951(昭和26)年9月9日	野見防災復旧促進委員会	昭和南海地震により防波堤が決壊したことを受けて野見海岸の防波堤の復旧工事を行った、その記念碑。
19 須崎宝永津浪溺死之塚	すさきほうえいつなみできしのつか	宝永地震・安政地震	高知県須崎市須崎627-1 お馬神社北	1856(安政3)年10月4日	亀屋久蔵・鍛冶活助・橋本屋吉左衛門	宝永地震150年忌に際して計画された碑であるが、安政地震の発生により二つの地震記録が刻まれる。
20 原町地蔵堂地震碑	はらまちじぞうどうじしんひ	昭和南海地震	高知県須崎市原町	1959(昭和34)年8月1日	梅原武吉	須崎駅近くの地蔵堂境内にある昭和南海地震碑。現在同じ形状・内容が記された2代目の碑が立っている。

21	須崎新町津浪之碑	すさきしんまちつ なみのひ	チリ地震・昭和南 海地震・宝永地 震	高知県須崎市新町	1965(昭和40) 年2月28日	須崎市市長 上 田辻益 田川兼 盛 他	須崎市内で発生したチリ地震被害を受けて実施した対策事業 の竣工を記念して建てられた碑。
22	安和海岸慰霊碑	あわかいがんい れいひ	宝永地震	高知県須崎市安和	1981(昭和56) 年	安和霊友会	須崎市安和の海岸沿いにある、宝永地震の被災者を慰霊する ために建てられた石碑。
23	越知町柴尾の石碑	おちちょうしぼう のせきひ	宝永地震	高知県高岡郡越知町柴 尾800 一本杉観音堂前	1710(宝永7)年		宝永地震に伴い発生した地すべり性崩壊により形成された天然 ダムによる災害の碑。柴尾集落の大杉の下に設置しており、 地元では「石碑より下に家を建てるな」という言い伝えが残る。
24	久礼熊野神社地震碑	くれくまのじんじや じしんひ	白鳳地震・宝永地 震・安政地震	高知県高岡郡中土佐町 久礼	1891(明治24) 年12月吉日	高橋伊平	白鳳地震の「黒田郡」伝承について刻まれている碑。宝永・安 政地震の被害の様子についても刻まれている。
25	久礼漁港災害碑	くれぎょこうさいが いひ	安政地震・昭和 南海地震	高知県高岡郡中土佐町 久礼 久礼漁港前	1932(昭和7)年 11月		久礼漁港前には災害碑で、久礼の地域で発生したさまざまな 自然人为災害の年表が刻まれている。
26	伊田海岸地震碑	いだかいがんじし んひ	安政地震	高知県幡多郡黒潮町伊 田真磯 松山寺入り口		文瑞	黒潮町伊田真磯の松山寺入り口にある安政地震碑。「すずな み」(小さな津波)に関する記述がある。
27	入野加茂神社震災碑	いりのかもじん じゃしんさいひ	安政地震	高知県幡多郡黒潮町入 野	1857(安政4)年 6月1日	入野村浦若連 中	安政地震発生当時の黒潮町界隈の津波の押し寄せる様子が 詳細に描かれている自然石でできた石碑。
28	入野加茂神社南海大地震の 碑	いりのかもじん じゃなんかいだい じしんのひ	昭和南海地震	高知県幡多郡黒潮町入 野	1966(昭和41) 年12月21日	矢野栄吾	入野賀茂神社境内にある昭和南海地震の震源や被害に関す る数値情報が淡々と刻まれている石碑。
29	下田水戸住吉神社碑	しもだみとすみよ しじんじやひ	安政地震	高知県四万十市下田	1859(安政6)年 4月		四万十市下田地区の住吉神社境内にある。摩耗がひどく、「安 政」「地震」という文字がわずかに確認できる。
30	為松公園震災碑	ためまつこうえん しんさいひ	昭和南海地震	高知県四万十市中村	1950(昭和25) 年12月21日	中村町	昭和南海地震で甚大な被害を受けたことを教訓に建てられた 四万十市中村町の為松公園内にある震災碑。
31	五味天満宮地震碑	ごみてんまんぐう じしんひ	安政地震	高知県土佐清水市下ノ加 江	移設日1956年1 月1日/(安政三 年)	河原青年団・河 原われら会	五味天満宮境内入り口左脇にある安政地震碑。旧国道の工事 に伴いこの場所に移転したとされる。
32	清水中浜港地震碑	しみずなかはまこ うじしんひ	安政地震	高知県土佐清水市中浜	1855(安政2)年		土佐清水市中浜港近くのジョン万次郎碑の後ろにひっそりたた ずむ安政地震時の様子が刻まれた碑。
33	清水中浜峠池家墓碑	しみずなかはまと うげいけけぼひ	宝永地震・安政 地震	高知県土佐清水市中浜	1855(安政2)年 3月	池道之助清澄	土佐清水中浜集落入り口の池家の墓石に刻まれた碑。安政地 震と宝永地震の記述がある。
34	三崎浦震災供養石仏	みさきうらしんさ いくようせきぶつ	安政地震	高知県土佐清水市三崎	1596(慶長元) 年7月	泉屋儀助	地震後ただちに津波が三崎川にあふれ、東は田中の横道、西 は高仏まで浸入したとある。
35	三崎十字橋碑	みさきじゆうじば しひ	安政地震	高知県土佐清水市三崎	移設日1976(昭 和51)年11月	宮崎林右工門、 同苗友三郎/三 崎郷土史の会	正面に大きく十字橋と刻まれた安政地震碑で、火を消してから 家を出ることが第一である、と言う教訓が刻まれる。
36	下川口春日神社地震碑	しもかわぐちかす がじんじやじしん ひ	宝永地震	高知県土佐清水市下			春日神社入り口の鳥居左手に他の記念碑と並び建立してい る。「宝永四・十月四日」という文字のみが刻まれており、おそら く未完の碑と考えられる。
37	大島ハイタカ神社宝永地震 潮位碑	おおしまはいたか じんじやほうえい じしんちょういひ	宝永地震	高知県宿毛市大島神社	1995(平成7)年 10月1日		『甲寅大地震御手許日記』によると宝永地震の津波は石段七段 目まで押し寄せたとされる。
38	大島ハイタカ神社安政地震 潮位碑	おおしまはいたか じんじやあんせい じしんちょういひ	安政南海地震	高知県宿毛市大島神社	1995(平成7)年 10月1日		石段39段目(9.8m)の高さまで津波が押し寄せ、大島も含め海 辺の町は軒並み亡所となった。大島の「小野家家譜」には、こ のハイタカ神社にも津波が押し寄せ、石段わずかに三段残った と記されている。

参考:HP 地震津波碑×デジタルアーカイブ(国立研究開発法人海洋研究開発機構高知コア研究所 谷川亘氏)、『歴史探訪南海地震の碑を訪ねて』(毎日新聞社高知支局)

## 寅彦ゆかりの地

地域		住所	メモ
高知市中心部	A	寅彦墓所	高知市東久万 寅彦の父母、寅彦、三人の妻が眠る。
	B	「鴫つき」舞台	久万川沿い 随筆「鴫つき」で寅彦が鴫つきを見た場所。まだ慣れない写生文で書かれている少年時代の思い出。
	C	愛宕神社	高知市愛宕山 鳥居に寅彦の名が刻まれている。
	D	江ノ口小学校	高知市愛宕町 移転後の小学校。寅彦の碑がある。
	E	旧江ノ口小学校	高知市愛宕町 寅彦が通っていた小学校の跡地。
	F	小津神社	高知市小津町 寅彦の父・利正が寅彦の病平癒を祈って奉納した石橋や石柱がある。
	G	「花物語(昼顔)」の舞台	高知市桜馬場 随筆「花物語(昼顔)」の舞台。蝙蝠を追い、砂山を登って遊んだことが書かれる。
	H	寺田寅彦記念館(旧寺田邸)	高知市小津町 寅彦旧邸を復元。随筆「祭」「森の絵」「重兵衛さんの一家」「庭の追憶」などの舞台。
	I	城西公園	高知市丸ノ内 北西川沿いに随筆「花物語」の碑がある。
	J	高知城	高知市丸ノ内 随筆「花物語(常山花)」「郷土的味覚(菱の実)」などの舞台。
	K	高知県立文学館	高知市丸ノ内 寅彦資料を収蔵・展示。
	L	追手前高校	高知市追手筋 寅彦が通っていた旧高知県尋常中学校。随筆「蓄音機」「蓑田先生」の舞台。
	M	オーテピア	高知市追手筋 敷地に寅彦の銅像があり、5階の高知みらい科学館には寅彦の展示がある。
	N	鏡川河畔	高知市鷹匠町 随筆「涼味数題」には、幼い寅彦がここで開かれている納涼場に行き夜店を眺めたところ。
	O	永福寺	高知市井口町 寅彦の叔父が巻き込まれた井口事件の舞台。随筆「柿の種」にこの事件に関する小話がある。
	P	伊野部邸跡	高知市朝倉 寅彦の姉・幸が嫁いだ家。随筆「竜舌蘭」「花物語(棟の花)」の舞台。
	Q	朝倉神社	高知市朝倉 随筆「田園雑感」で取り上げられている。別名「木の丸殿」。
	R	「怪異考」舞台	高知市孕 随筆「怪異考」で「孕のジャン」(地鳴り)が聞こえる場所として取り上げられている。
	S	若宮八幡宮	高知市長浜 随筆「五月の唯物観」に書かれた、どろんこまつりが行なわれている神社。
	T	貴船神社	高知市種崎 「田園雑感」で妻・夏子と盆踊りを見た場所。この近くで夏子は結核の療養生活を送った。
	U	「海水浴」舞台	高知市種崎 随筆「海水浴」で父に連れられて行き、初めてラムネを飲んだ場所と書かれている。
南国市	V	「郷土的味覚」舞台	南国市十市 随筆「郷土的味覚」に出てくる楊桃(ヤマモモ)の有名な産地。
室戸市	W	室戸市最御崎寺(東寺)	室戸市室戸岬町 随筆「初旅」舞台。中学生の寅彦が一つ年上の甥・別役励夫と共に室戸へ4~5日かけて旅をし、鯨の絵巻のスケッチなどをしている。
須崎市	X	寅彦の療養地	須崎市 寅彦が結核の療養で滞在。随筆「嵐」の舞台。
中土佐町	Y	宇賀家墓所	中土佐町大野見 寅彦の父・利正の実家宇賀家先祖の墓所が大野見にある。